

評価委員会総合評価

研究課題名：気候・地球環境変動の要因解明と予測に関する研究

評価委員

委員長：岩崎俊樹、中島映至

委員：木本昌秀、三枝信子、田中博、坪木和久、泊次郎

評価年月日：平成30年11月26日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 ☒ 可 ☐ 否
(2) 修正の必要の有無 ☐ 修正の必要あり ☒ 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究は、気候変動に関する国際枠組や各種国際共同研究への貢献度が高い重要な分野を扱っているとともに、気象研究所の一貫した研究の方向性の下に適切に課題設定された、社会的に重要な研究課題である。

特に、副課題3と4では、大気と海洋での温室効果ガスなどのモニタリングに注力されており、これらの副課題は、気象研究所でないと実施できない特有の研究と思われる。

一方、多くの課題を取り込んでおり、関連する他の研究課題（「地球システム・海洋モデリングに関する研究」、「シームレスな気象予測の災害・交通・産業への応用に関する研究」）との役割分担を明確にした上で、連携を密にして、研究を効率的に進めていく必要があるだろう。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について留意して進めて欲しい。

- ・自然現象（異常気象の多発や北極海の海氷減少など）、社会情勢（適応法の成立、IPCCの締め切りなど）、観測技術の進展（GOSAT-IIほか）などの状況を短中期的な目標に反映させ、節目節目で気象研究所としての達成度を確認できるような計画を示していただきたい。
- ・研究の目標について、5年間にどのレベルまで達成するのか、何に力を入れるのかを示し、メリハリのある研究活動を展開していただきたい。
- ・長期間の研究課題を緊張感を保ちつつリードしていくためには、長期的な目標と短中期的な目標の両者が必要であり、かつ両者が整合していることが望ましい。
- ・気候変動・地球環境変動は多くの研究機関・大学で研究が進められている。是非、リーダーシップを取り、当該分野の日本の研究をリードしてもらいた

い。

- 副課題 1 では、多数サンサンプルを用いた感度解析を組織的に要因分析等
用いる潮流を確立して頂きたい。